

平成27年度岡山県文化振興審議会議事概要

日 時 平成28年2月12日（金）午前9時30分～午前11時08分
場 所 ルネスホール ワークルーム

1 開会

環境文化部長あいさつ

2 会長、副会長選任

会長に臼井委員、副会長に赤木委員を選任

3 議事

- ・平成27年度の取り組みについて
- ・平成28年度重点事業について

事務局

- ・資料に基づき説明

委 員

- ・アートトラベリングトランクは、ハブ教員が中心となり、地域の人々、子供たち、近隣の先生で繋がってもらおうというものである。先生同士の連携を通じて、岡山の文化に親しむ機会を作ることを目的としている。
- ・再来年度、幼稚園から高校までの先生を集めた美術教育に関する全国大会が岡山市で行われるが、そこでも連携を進めるプロジェクトが立ち上がっている。

委 員

- ・文化芸術活動推進のため、県が事業を行うに当たり、連携を考える段階に来ている気がする。県が音頭を取って、「県の旗の下に集まれ」ではダメである。県もネットワークに入るという感じで進めれば、県下全体も活性化していく。
- ・高梁で一番注目すべきは、私立学校である。継続性と広がりを持っているのは民間である。そういうものと連携を深めた方がよい。
- ・県立美術館の原田直次郎展、浦上玉堂と春琴・秋琴展は、文化活動の評価にも関わる話である。「岡山の美術の歴史はこうだった」と、これをきっかけにして、ひとつ基本ができればよいと思う。

委 員

- ・平成28年度のアートプロジェクトおかやま推進事業は、国文祭の成果を基に、それまでの地域文化を高めていくのが課題であり、地域の祭り、民俗芸能、音楽など幅広い。アートを美術という領域だけにとらわれることなく、工夫していけば、面白い取り組みになると思う。
- ・文化振興ビジョンの成果指標については、あつ晴れ！子どもみらい塾の講師派遣回数、優れた芸術を鑑賞した学校数を見ると、どちらも増えてきている。こういう事業をますます充実させて欲しい。

委員

- ・音楽は他のアートと違い、ただの空気の振動に過ぎない。空気の振動は終わると消えてしまう。ただの空気の振動にお金をいただくためにはどうすればよいか。それは、どれだけ演奏したことが喜んでいただけているかに関わっている。
- ・来年度、クラシックと舞踊とのコラボレーションが行われるが、本当の意味でのコラボレーションが広がって、深められたらいいと思う。

委員

- ・文化活動の連携を国という単位でまとめて考えるのは悪いことではない。ユネスコにおける無形文化遺産も、国内の文化財をひとまとめにして登録されている。そういうことは、国に任せておけばよいというわけにはいかない。神楽の場合は、宮崎県がコーディネーターとして引っ張っている。
- ・盆踊りは、本県には白石踊り、大宮踊り、備中松山踊りがある。更に周辺に広げて、日本の盆踊りとしてまとめていく。たかが文化財ではあるが、日本で連携し、世界に訴えることができるのかが試される時代が来ている。

委員

- ・書は一番身近なものでありながら、書をやっている人だけのものになっている。若い人にいかに伝え、どう繋げていくのか考え直していかないとけない。
- ・用材が書とどう関わっているか。今後は、文字を書き、書かれた文字に何を託していくかというようなことも含めて、書の持つ魅力をもう少し深いところから考えていかなければいけないと感じている。

委員

- ・芸術文化が地域に入ること、時代のレイヤーが見えてくる。地域に住む人そのものの歴史に光が当たり、アーティストが、普段の佇まいの中に新しい発見を見出すことで、その地に住む人のプライドが復権されている気がする。
- ・まちアートマネジメント講座は、単年度で完結しない事業である。受講後に、どのような活動をするかで真価が問われる。昨年度の受講生は、本拠地等で継続的にイベントに取り組んだ。いろんな分野が繋がって伝統文化を継承できる近未来社会が構築できたらいいなと思っている。

委員

- ・県外にいと、県のアートプログラム等の情報が全く届いて来ない。県内外にきちんと伝えていく方法にこそ、力を注いで欲しい。チラシやHPを作るだけでなく、議論を深めて欲しい。アートは「これを是非見てみたい」、「参加してみたい」が重要である。
- ・アウトリーチのポイントは、①個性的であること、②施設のイベントが開かれていること、③自発的に人々に関わることである。行政側は、助成はするが、口は出さないというのが一番よいと思う。

4 閉会